

# 余市町地域おこし協力隊座談会 2022

5人の「地域おこし協力隊」が  
余市町での1年間を語り合いました。

広報業務支援員  
本間朋子さん

ワイン産業支援員  
實田有希さん

ワイン産業支援員  
高松亨さん

余市町長  
齊藤啓輔さん

観光協会支援員  
榎木勝巳さん

観光協会支援員  
田口りえさん



現在、余市町には「地域おこし協力隊」として  
東京や海外などから移住し活動している5人の隊員がいます。  
それぞれこの1年間を振り返り、活動の紹介や余市町での生活について  
齊藤啓輔町長と語っていただきました。

皆さんのお話聞かせてください



**齊藤 啓輔** 町長  
さいとう けいすけ

紋別市出身。平成30年8月の町長選で初当選。  
他自治体との広域連携や民間企業等との協働  
の取り組みをはじめ、近年成長著しいワイン  
産業のブランド力アップなどに力を入れる。

♥余市町のお気に入りスポット  
シリパが見える海岸  
♪幸せを感じる余市の過ごし方  
仲間とおいしいワインを飲んでいる時

商品開発や販売促進で  
余市観光協会を支援

齊藤啓輔町長（以下、町長）：本日はお  
集まりいただきありがとうございます。  
まずは、みなさんのこの1年間の活動  
内容についてご紹介下さい。

榎木勝巳隊員（以下、榎木）：余市観光  
協会では販売する商品の開発に力を入れ  
られました。昨年秋からソーラン武士!!





**粕木 勝巳** 観光協会支援員  
もみき かつみ

宮崎県出身。宮崎県川南町商工会、北海道砂川市地域おこし協力隊を経て、令和2年4月着任。余市町の豊富な「食」をテーマとした観光PRに取り組む。

♥余市町のお気に入りスポット

透明りんご

♪幸せを感じる余市の過ごし方

ランチを中心に町内の飲食店で美味しいものを食べる

のイラストの入ったパッケージで、2種類のお菓子の販売を始めました。また、余市紅志高校の生徒と開発した、糠ニシンを使った一口サイズの揚げ物「ソーラン玉」は、土日祝日を中心に「道の駅スペースアップルよいち」や「エルラプラザ」で販売し、809食を売り上げました。ニシンの配合割合を何度も見直したのですが、その成果が出て、お客さんから「ニシンの風味が絶妙だった」との声も聞かれました。

1月末から2月にかけて町内の学校給食に試食提供し、アンケートではおいしかったと好評でした。現在も、町内の事業者さんと今年のゴールデン・ウィークに向けた新商品を開発中で、商品数が増えてきたら道内外の物産展などにも出店したいと思っています。  
**田口リエ** 支援員（同、田口）：私も主な活動場所は観光協会です。昨年10月に着任し、コロナ禍で観光客が減少する中、ECサイト（インターネット上で商品を販売する店舗）を充実させたいという依頼を受けて、大幅なリニューアルを手がけました。昨年12月上旬に完成したオンラインショップ（※1）は順調に商品数を増やし、現在約260商品を掲載。町内の事業者の商品PRのための環境づくりのスタートラインに立てたと思います。長期的には町内外の人に愛される商品開発を目標としています。また、観光協会の事業として、サイクルツーリズムにも取り組んでい

ます。私自身、趣味でロードバイクにのっているのが、町内外の人が楽しめるコースを作ってマップにして配りたいと考えています。

**余市のワインを広める  
食とワイン産業を支援**

**本間朋子** 支援員（同、本間）：広報業務支援員として、余市町の広報PRがミッションです。町の広報誌やホームページで協力隊に関する広報記事を執筆するほか、一般の雑誌や会員誌などに余市町の食やワインに関する記事を書いています。また、町内の中学・高校で、協力隊の活動紹介や、魅力ある地域づくりについての授業をしました。さらに、ワイン産業支援員の實田さんと一緒に取り組む事業として、「余市のワイナリーマップ」や「余市のワインあり

ます。』ステッカー」の編集を担当。現在、ワインを切り口に余市町を広報PRするホームページ（※2）を作成中です。ほかにも、町内や近隣市町村の方々にワインを身近に感じてもらうための事業として、日本ソムリエ協会の「ワイン検定」を町内で実施しました。

**實田有希** 支援員（同、實田）：ワイン産業支援員として「平川ワイナリー」でワイナリーの支援をしながら業務を学んでいます。また、毎週金曜日に余市駅前のワインバー「Y'n(わいん)」で、ソムリエとして接客をしています。「Y'n」は地域の人や観光客と触れ合えるリアルな場ですので、ワインと一緒に町内の「食」をPRするイベントも行っています。北島農場のブランド「北島豚」の生ハムや、ブドウを使った天然酵母のパンの提供などです。

さらに東京・横浜で余市のワインのPRイベントも計画しましたが、コロナ禍により道半ばです。余市のワインを扱っている店舗に貼ってもらうステッカーを作ったので、町内だけでなく、イベントと同時に日本全国にも広げていきたいです。

**高松亨** 支援員（同、高松）：實田さんと同様にワイン産業支援員として、「ドメーヌタカヒコ」で栽培・醸造の勉強と経験を積みながら、海外に余市のワインを輸出する事業を手がけています。各ワイナリーから1~5ケースのワイン

**田口 リエ** 観光協会支援員  
たぐち りえ

旭川市出身。官公庁や会計事務所での勤務のほか、カラーコンサルティングやデザイン・編集などの幅広い経験を経て、令和3年10月着任。

♥余市町のお気に入りスポット

透明りんご周辺から見るシリパ岬と海

♪幸せを感じる余市の過ごし方

朝起きた時に部屋の窓からシリパ岬を眺める





を預かって、それをまとめて輸出する方針です。すでにアメリカとフランスに向けてサンプルのワインを送ったのですが、コロナ禍で流通が滞っているようで……。この春には先方と具体的にどう進めるかを話し合いたいと思っています。

また、東京のワインショップ「カーブドリラックス」のサイトで、余市のワイナリーを紹介するオンラインのセミナーや、ANAの関連会社の事業でイギリス向けのオンラインセミナーも担当しています。少しずつでも国内外に余市のワインを販売していきたいと思っています。

## 風景や美食に惹かれて 東京から余市へ移住

**町長**：本間さんと田口さんは、東京で仕事をしていたのですが、余市町の地域おこし協力隊に応募した動機は何だったのですか？

**本間**：私のきっかけはコロナ禍でした。それまで約20年間、東京で新聞・出版の世界に身をおいてきたのですが、令和2年4月に初の緊急事態宣言が出され、取材は延期、雑誌は休刊と、急に時間が空いてしまいました。その時、旧知の仲だった「登醸造」の小西史明さんに、余市で何かお手伝いできることないですか？と連絡したのをご縁に、4月下旬から6月上旬までの約1

## 本間 朋子 広報業務支援員 ほんま ともこ

埼玉県出身。10年間の新聞社勤務を経て、フリーのライター・編集者として「旅」「食」「ワイン」をテーマに取材執筆活動を行う。令和3年4月着任。

### ♥余市町のお気に入りスポット

コープさっぽろ余市店

### ♪幸せを感じる余市の過ごし方

シリパ岬が見える海岸でバーベキューをしながらワインを飲む



カ月半を町内で過ごしました。そこからおいしい食べ物とワインがある余市町で暮らしたいと思うようになったのです。

**田口**：私は、親戚が登地区で観光果樹園を営んでいたの、子供のころから長期の休みは余市町で過ごしていました。3年前に伯父が亡くなった時に、余市町がどんなに大切な場所だったかと気づきました。その時は、東京で独立してカラーコンサルティングの仕事をしていたのですが、その後、夫が近い将来、札幌に転勤になるという話が浮上し、景色が素晴らしい余市町に住んでコミュニティーカフェを開きたいという新たな目標ができました。その移住の相談で町役場を訪れたところ、協力隊を募集していると聞き応募に至りました。

**本間**：余市町から札幌は通勤圏でも

のね。私は1、2か月に一度くらい仕事で東京に行くのですが、新千歳空港までのアクセスが良いことを実感しています。余市町の協力隊が副業OKだったのも応募の動機でした。

**田口**：町役場の直接雇用ではなく、委託の形も自由度が高くて活動しやすいですよ。

**町長**：町にとって価値のある仕事さえしてくれば、雇用の形や副業の有無は問いません。余市町では令和2年度になるまで地域おこし協力隊の採用はありませんでした。でも、私は外部の人材の知見を活用することは、コミュニティーを強化する上で重要だと考えています。財源的には国費が使える制度ですし、みなさんの活動を参考にしながら拡充していくことが合理的な政策だと判断しています。

## 協力隊だからできたこと。 これからやりたいこと。

**町長**：地域おこし協力隊の制度で移住してみて良かったことはありますか？

**實田**：知らない土地に移住するのは勇気がいることです。協力隊は、ミッションと自分のやりたいことがマッチすれば、地域のためになる活動をするので収入が得られ、生活が保障されますので非常にありがたいです。同時に自分の未来にもつながっていく。この制度があってよかったと思います。



## 實田 有希 ワイン産業支援員 さねだ ゆうき

神奈川県出身。東京都内のショットバーやワインバー、ビストロなどの飲食店でバーテンダーやソムリエとしての経験を積んだ後、令和3年4月着任。

### ♥余市町のお気に入りスポット

余市漁港親水公園

### ♪幸せを感じる余市の過ごし方

余市漁港親水公園でシリパ岬を眺めながらのバーベキュー





## 高松 亨 ワイン産業支援員

たかまつ とおる

シドニー出身。15歳からバリスタとして飲食業界で働く。ワインに惹かれてイギリスのレストランなどでソムリエとして勤務した後、令和3年5月着任。

### ♥余市町のお気に入りスポット

ナナツモリの畑（ドメヌ タカヒコ）

### ♪幸せを感じる余市の過ごし方

「がんがら」で焼き鳥とビール

**榎木**：私は余市町で初の協力隊でしたが、余市観光協会の支援員なので、町民から見て“観光協会の仕事をしている人”というわかりやすさがあったのかなと思います。初めて訪れる飲食店や事業者にも「観光協会で働いている地域おこし協力隊です」と自己紹介できました。

**本間**：地域おこし協力隊を知らなくても、行政から仕事を委託されています、と説明できるのは助かりますよね。見

慣れない人をどこの誰だろう？と思う気持ちは、誰にでもあるだろうから。あれ？私だけかな？（笑）

**高松**：自分はあまり気にしないほうかな（笑）。協力隊は、仕事や生活のサポートをしっかりしてもらえるのいいと思います。これまでと比べると余市町での生活は何不自由なく、とても過ごしやすいです。

**田口**：私たちが日常的にサポートしてくれる町役場のスタッフさんたちは、

疑問が生じたときに、すぐに調べます！と言って動いてくれます。私も行政機関で働いていた経験上、組織によっては動きが鈍い、ということもあったので、すごくいいと感じています。

**町長**：みなさんには定住に向けた自立を目指して頑張ってもらいたいと思っています。地域のポテンシャルを生かした事業を展開して、卒業後はこの地域でどんどん稼ぐことを期待しています。

**本間**：まずは協力隊の5人で何かやりたいですね。それぞれの強みを生かして。

**榎木**：コロナ禍の動向はありますが、秋の「味覚の祭典」で出店するのはどうですか？

**實田**：いいですね！イベント、やりたいですね。

**高松**：ワインとビールと余市の「食」で！

**田口**：私はイベントのポスターを作ろうかな。地域おこし協力隊がいることで余市町の雰囲気が変わったと感じてもらえるといいですね。数字などで結果が出るその手前の段階でも、変化を実感してもらえるように頑張りたいでしょう！

## 「食の都よいち」を一緒に盛り上げませんか？ ～余市町地域おこし協力隊募集～



季節ごとに水揚げされる旬の水産物や加工品、果樹や野菜の農産物、さらには全国トップレベルのワインぶどう産地で、ワインやウイスキーといったお酒など豊富な食資源に恵まれるまち「余市町」で、あなたのスキルを生かして共に地域を元気にしましょう！募集情報は左のバーコードから！

(※1) 余市観光協会オンラインショップ  
エルラプラザ <https://yoichicho.com/>

(※2) ホームページ「余市のワインあります。」 <https://yoichi-no-wine.com/>



Text: Tomoko Honma  
Design: Rie Taguchi  
Photo: Tateyuki Tabuchi (Studio GREIF)  
2022.03 10,000